

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Birth cohort study on the effects of desert dust exposure on children's health: protocol of an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study

和文タイトル: 『黄砂と子どもの健康調査』の計画

ユニットセンター(UC)等名: 京都ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMJ Open.

年: 2014 月: 卷: 4(6) 頁:

筆頭著者名: 金谷 久美子

所属UC名: 京都ユニットセンター

目的:

砂漠由来の粒子状物質(土壌性ダスト)は、大気中粒子状物質の35%をしめており、気候変動・砂漠化の進行により今後さらに増えていく可能性が懸念されている。そこで、妊婦や生まれてくる子どもへの影響を調べる『黄砂と子どもの健康調査』をエコチル調査の追加調査として計画した。そのプロトコルを紹介する。

方法:

対象は、京都/富山/鳥取のエコチル調査参加者のうち、本追加調査に同意した妊婦及び生まれてきた子ども。黄砂は、各地域のライダーによる測定値を利用する。アレルギー症状やアレルギー疾患の発生については、回答依頼を各参加者のメールに必要なときに送信し、タイムリーに回答頂く。黄砂の濃度と回答を照らし合わせることで、黄砂飛来時のアレルギー症状発現リスクや、黄砂のアレルギー疾患発症リスクを算出する。

結果:

(進捗) 京都/富山/鳥取のエコチル調査参加者7,038名のうち、2012年末までに5,307名に本追加調査について説明を行い3,425名から同意を得た。なお、妊婦のアレルギー症状への影響については解析が終了し結果を報告している(「黄砂のアレルギー症状への影響」参照)(2018年現在)。

考察:(研究の限界を含める)

我々の知る限り、環境測定装置とオンライン質問システムを連携させて必要なときのみ質問票を送付することにより参加者の負担を減らす、世界で初めての試みである。研究の限界の一つ目として、参加者の携帯電話の形状がそれぞれ違うため質問票の見え方が異なるかもしれないこと、研究の限界の二つ目として、携帯電話を常時使用していない方が参加者に含まれず調査の対象から外れることが挙げられる。

結論:

『黄砂と子どもの健康調査』の計画を報告した。